

平成28年度 第26回全国女性建築士連絡協議会 アピール

公益社団法人日本建築士会連合会
女性委員会

全国女性建築士連絡協議会は、平成2年に東京で第1回目を開催後、各地域で毎年開催し昨年で25周年を迎えました。女性委員会を立ち上げた初代女性委員長をはじめとして、全国の女性委員長ならびに女性委員皆様との連携が本大会を築いています。また、連合会会長および担当副会長、事務局と多くの方々の活動へのご理解に深く御礼申し上げます。

本年4月14日に発生した「平成28年（2016年）熊本地震」において、亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被害にあわれた方達ならびに関係者の方々には、一日も早く日常が戻られることを祈念いたします。

5年前に発生した東日本大震災直後から、震災などの被害情報のみならず復興状況の情報発信を毎年継続実施しております。熊本県・大分県の地震からまだ3か月である第26回目の本大会は、この5年間の女性委員会の取組みを鑑みて、現地の状況報告から見えてくる求められる事と、これからの女性建築士の役割の新たなかたちを模索していくきっかけとするため開催しました。これは、まさに女性ならではの地域に根差した長期的な活動の形です。風化させない情報発信の継続が全国の防災活動を促進し、地域と一体となる防災活動の指南役となる事を目指しています。

本年度は、メインテーマを「未来へつなぐ居住環境づくり」とし、「日本の暮らし 豊かな生活文化の再発見」をサブテーマといたしました。私達女性建築士は、変わりつつある日本の暮らしを見つめなおし、これからの四半世紀にむけて豊かな暮らしのあり方を発信してまいります。

1日目の約350名の女性建築士が一堂に会する全体会では、基調講演に岐阜大学名誉教授の渡辺 光雄氏をお迎えし、「日本の暮らし 豊かな生活文化の再発見」をテーマにご講演いただきました。引き続き学生も含めた4名のパネリストをお招きし、ディスカッションを行いました。

2日目の分科会では、「防災への取り組み」「エネルギーと暮らし」「歴史的建造物と建物再生」「環境共生住宅～住み継ぐ～」 「景観まちづくり」「子どもと住環境」「高齢社会と福祉住宅」「二地域居住の提案」の8つのテーマのもとに熱心に討論を進めました。

それらの成果として、以下の点を、今年のアピールとして発表します。

1. 私たちは、震災や復興状況等の情報発信を継続し、忘れない・風化させない・続けていくことを基本に建築士としての役割を見つめなおし、これからの暮らしを守ります。
2. 私たちは、今回の協議会を通し、これからの四半世紀を見据え、女性として、建築士として地域に根差した防災・支援のあり方の構築を目指します。
3. 私たちは、今回の基調講演を通して、日本の「伝統的な和の暮らし」を再認識し、次世代につながる豊かな暮らしのあり方とともに伝統技術と昔からの知恵の伝承について取り組みます。
4. 私たち女性建築士は、様々な分野の専門家との連携をしながら、子どもと高齢者などの弱者に対する女性建築士の役割を次世代に伝えていきます。